

---

# 聴覚についてどのくらい知っていますか

博士補聴器

---

## ご存知ですか？

世界中で約10分の1の人は程度は違えど、日常生活を送る上で聴力障害によりコミュニケーションに障壁を抱えて生きていると言われていています。

あなたやあなたのご友人は、このような問題はございませんでしょうか？一緒に聴覚について理解を深めましょう。

## コミュニケーションの架け橋

聴覚は人間が持つ重要な感覚の一つであり、それは、家族や友人とのコミュニケーションを可能にするだけでなく、時々刻々と変化する生活の中での音を感じさせてくれます。私達は聞こえから安心感と人々の輪（コミュニケーション）の中への参加意識を得る事ができます。私達の身の回りには数多くの音の発生源があり、私達は眠るときでさえ、脳では音を常に処理し続けています。私達は目は閉じることができますが、耳を閉じる事はできません。そしてこの聴覚は子どもたちにとって、とても重要です。0～3歳の子どもが言語機能を発達させるときの鍵になるからです。私たちは聴覚の重要性を無視出来ません。聴覚の問題が日常生活に深刻な影響を与えるようになってから、または、聴覚に大きなダメージがあってから気をつけるのではなく、日ごろから聴覚の健康に気をつける必要があります。

(1)聴覚障害は障害が発生した場所に応じて、概ね5種類に分けることができます。

### ●伝音難聴：（音を伝えるところの障害）

耳介から内耳までの間のどこかに障害が発生し、音が通常の音量では内耳に正しく伝わらない難聴です。内耳以降の機能には問題ありません。普段は音量を大きくしたり、補聴器を着用することで会話出来ます。比較的軽度の場合は手術や治療で回復できます。

### ●感音難聴：（音を感じる場所の障害）

内耳の蝸牛（感音性）或いは、聴神経（神経性）の損傷、脳の障害に起因する難聴です。入ってくる音がただ単に小さく聞こえるだけではなく、大きな声

でも言葉の内容がはっきりしなくなる症状も見られます。補聴器を装着後でも言葉を完全に理解する事は難しい場合があります。

●混合性難聴：（音を伝えるところと感ずるところの障害）  
伝音性難聴と感音性難聴の両方の原因が重なった難聴です。

●心因性難聴：  
難聴者自身の聴覚器官は正常ですが、精神的な苦痛、恐怖、ストレスなどの心理的な要因からの難聴です。

(2)聴覚障害の発生した時期に応じて、2種類に分けることができます。

①先天性聴覚障害

●伝音難聴：小耳症、外耳道閉鎖、耳小骨奇形

●感音難聴：遺伝、母親の妊娠時における薬の副作用、早産、未熟児

②後天性聴覚障害

●伝音難聴：中耳炎、口蓋裂、ダウン症、脳性麻痺

●感音難聴：ウイルス感染、内耳障害、自然な聴力低下、神経腫瘍

### 難聴の症状

いくつかの聴覚障害の進行は非常に遅く、早期発見が遅れても大きな問題が無い場合もありますが、発見が遅れ、時間が経過した後には聴力回復が難しいことがあります。

### 幼児期

◎生後すぐ：音と会話に対して無反応か、反応が遅い

◎1歳：簡単な口頭での指示に従うことが出来ない

◎1歳半：1語が発せられない

◎2歳：短い言葉が発せられない

◎3歳：発音がはっきりしない

◎授業中に集中できない、注意力が散漫

### 青年期

◎頻繁に他の人に言葉を聞き返す

◎音への反応が遅い、電話や呼び鈴が聞こえない

◎テレビやステレオの音量が他の人が我慢できないほど大きい

◎雑音が多い環境で、会話することができない

◎常に人がしゃべっていることが聞き取りにくい、まるでブツブツ言っているように聞こえる

◎大勢で話すとき、皆の会話が聞こえない

◎長いスピーチを聞いていると、すぐに疲れる

上記のような症状がある場合、聴覚に問題があるかも知れません。

### **年齢における聴覚障害の発生確率とリスク**

出生時：

約0.1～0.2%の赤ちゃんが出生時に聴覚障害を持って生まれてきます。

未就学期：

約0.2%は軽中度の聴覚障害があります。

思春期から青年期：

運動障害、外傷、ストレスまたは、大きな音がする職場で働いていることで聴覚障害になる可能性は高くなります。

定年退職後：

聴力は年齢を重ねるごとに衰えていきます。日本国内での聴覚障害者において最も多い割合を占めます。